

ひとはく 研究員 だより

10年ほど前から、毎年、小学3年の環境体験学習の一環で、たくさんのお子さん、ひとはくの周りの深田公園で虫とりをしています。捕まえた虫は、小さなポリ袋に入れ、トンボ、バッタと仲間分けをしながら、ハーフミラーの外壁に展示していきます。100人の児童が虫とりをすると、ざっと200匹くらいになりますから、多種多様な虫を目の当たりにして、こんなにたくさんいるものかと、担任の先生らも、驚かされます。捕まえた虫を野に帰す前

主任研究員 八木 剛さん



に、虫を背景に、お楽しみのお話タイム。小学生からのよくある質問の一つに「この中に、絶滅危惧種はいますか？」というのがあります。難しい言葉を知らない子もいるので、意味を簡単に説明したあと、「じゃあ、みんなにききます。この虫が絶滅危惧種かどうかは、どうやって調べればいいですか？」と返すことにしています。10年ほど前は「図書室で調べる」という答えも多かったのですが、しだいに「インターネット」が増えていき、近年は「スマホ！」が多数です。「そうだね。ありがたう。では、本やスマホ

に答えを書いた人は、どうやって調べたのだと思いますか？」。質問した子も、周りの子も、首をひねり、いろいろな意見が出てきます。楽しい対話の時間です。

「今日、みんながしたような虫とりを、年がら年中、あ



①小学生らが虫とりをする深田公園 ②捕まえた虫を1匹ずつ収納することで虫を傷めない分類展示



ちこちで、何十年も、し続けることです」というのが、私の答えです。「絶滅危惧種」は「普通種」と、対概念、表裏一体の関係です。身近なところに普通にいる種を知ることなしに、絶滅危惧種を知ることができません。どんな虫

虫とりで生き物に興味を

がどれくらいいるのかは、地域によって異なり、年によっても、異なります。だれかがどこかで、地道な調査を続けているからこそ、どこにどんな虫がいて、何が絶滅危惧種かがわかってくるのです。とかく知識が先行しがちな時勢だからこそなおさら、子どもたちには、順序を追って体験してほしいものです。2019年、私は、366人の小学生、1539人の幼稚園・保育園児、1476人の親子など、3555人と虫とりをしました。スマホの中に、虫はいません。野を駆け、手に触れ、身近にいる虫たちと戯れる機会を、これからも増やしていきたいと思っています。生き物って楽しいな、と感じる心が芽生えることを願っています。